

## 平成17年度 第3回 教育研究審議会議事要録

日 時 平成17年4月26日（火）13:30～15:00

場 所 北方キャンパス本館 E701 会議室

出席者 <委員> 矢田学長、国武副学長、棚次副学長、羽田野事務局長、乗口外国語学部長、近藤文学部長、齋藤経済学部長、小野法学部長、高橋国際環境工学部長、谷村大学院社会システム研究科長、迎全学教務主事、山崎（勇）国際教育交流センター所長、山崎（克）産業社会研究所長

### 配布資料

- 1 学年暦の見直しについて
- 2 学年暦の変更に伴う学生への影響について
- 3 教員の採用制度（案）
- 4 教授半数制の見直し（案）
- 5 経営企画室ワーキング会議委員一覧表
- 6 平成18年度学部・大学院入学者選抜試験スケジュール
- 7 平成17年度第2回教育研究審議会議事録（案）

（冒頭で第2回教育研究審議会議事録（案）について確認）

### 議事要旨

#### 第1号 学年暦について

- 交換留学生のガイダンスなど今後日程の調整を要するものがあるが、教務上は学年暦の変更は可能である。
- 従来から2学期定期試験が企業説明会等と重複する場合があったが、学年暦の変更にあたり、企業説明会等と試験日程の重複が生じないように、各教員には、就職活動を行う学生からの相談に応じ、個別の対応をお願いしたい。

【議長】原案のとおり承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

#### 第2号 北九州市立大学教育職員の採用について

#### 第3号 教授半数制の見直しについて

- 専攻分野が大きく違う場合に、現在の教育研究審議会委員が選考委員会に参加するのは難点がある。
- ある専門の人を選考するのにその専門外の人を参加させる意義は何か。
- 教員の選考はこれまでは研究論文中心であったが、今後は教育的な観点（授業、学生に対する接し方等）を重視する必要がある、専門外の人が入っていた方が望ましい。学内外に対する説明責任がより果たされることにもなる。

- 最終的に教育研究審議会が人事の承認を行うことになるため、そのための情報獲得の意義もある。
- 教育研究審議会から参加する1名だけが、全学的視点から、意見を言うということになるのか。
- そうではない。
- 語学教師の採用はこれまで学部判断で行われてきたがどのような扱いになるのか。
- 語学教師の人事については、任期の問題も含め近いうちに何等かの提案を行いたい。
- 選考委員会は採用も昇任も取り扱うのか。
- そのとおりである。
- 選考委員会は「人事1件」毎に立ち上げるのか。
- そのとおりである。
- 教授の半数制の見直しについては、学部ごとに教授の割合が3分の2となって良いのか。
- 昇任基準の作成、教員評価の反映という二つの要件を満たした学部からは教授の割合3分の2を前提にした人事計画を提出してもらい、全学的調整を行う。
- 人事調整委員会は今後とも残ることになるのか。
- 全学的調整を教育研究審議会で行うか、人事調整委員会で行うか検討中である。具体的な人事の話が始まる前までに明確にしたい。
- 昇任基準は各学部それぞれで定めて良いのか。
- 学部が積極的に考えた提案を提出いただきたい。
- 研究成果の評価については学問分野での特殊性があり、画一的にせず学部ごとで決めた方が適当。なお、研究成果以外の評価項目は全学的な観点からの調整をしたい。
- 学問領域の特殊性はあるが、一定のベンチマーキングはできるのではないか。
- 学部ごとに作成する昇任基準は、従前の「採用及び昇任に関する資格選考規程運用内規」に定める基準よりさらに厳格な要件のものとしてもよいか。
- 構わない。
- 教授の割合3分の2を前提とした人事（採用・昇任）は17年10月から実施されるのか。
- 10月実施の可能性も含めた提案である。

【議長】次回審議会にて、第2号・3号議案については各学部等で検討のうえ、異論がなければ、次回の教育研究審議会承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

## 報告

- (1) 経営企画室ワーキング会議委員について事務局から報告があった。
- (2) 平成18年度学部・大学院入学者選抜試験の日程について事務局から報告があった。  
なお、社会システム研究科国際開発政策コース選抜試験については、財団法人国際東アジア研究センターと協議の上、今年度は行わないことに決定したとの報告が同研究科長よりあった。
- (3) 次回審議会について、平成17年5月10日（火）次々回審議会について5月24日（火）に開催したい旨、事務局から説明があった。